

---

# 虚空へ

森下 加夜子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

虚空へ

### 【Nコード】

N2382F

### 【作者名】

森下 加夜子

### 【あらすじ】

置いていかれているのは私？それとも？もう二度と会えないなんて、まだ信じられないのよ。

在る高さの違いで十分な風を受けられない雲みたいに、私はどんどん置いて行かれていく。

一瞬でも一緒にいれたことが奇跡みたいに感じるくらいに私は二度と追い付けない。

きっと、このまま、雨になるみたいにして消えてしまっただ。

ひとかけらの冗談もなくそう思えてしまう位、今の私はバラバラだ。考えることにとりとめがない、感情の起伏に安定がない、どれだけ頑張っても集中がない、昨日の記憶がない。

またね、って言ったのに。

明日も会えると疑わなかったのは私一人じゃないはずなのに。

どうしてあれを最後に私たちは出会ってないのだろう。

どうして、どうして。

願えば叶うなんて嘘だった。

行動すれば報われるなんて嘘だった。

願っても、祈っても

どんなにたくさん探しても、

今のこの瞬間まで、私はあなたを見つけられなかった。

声すら聞けず、言葉すら得られず、ただひたすら寂しくて、むなしただけだった。

少し長かっただけの、幸せな夢だと思えたら楽なのに、今は思い出の色褪せるのが恐ろしい。

あの素敵な時間を失った私は、きっといまよりバラバラだ。

今だってそう。耳を閉めて、瞳を閉じて、心を閉ざして、やっと私は私を見つけたままでいられる。

緩やかに死へ至るようにしてやっと、私は静かに自分を保っている。

何も聞こえず、何も見えず、何も感じず。

なのにどうして、こんなに揺さぶられているのだろう。私の全部がざわめいているのだろう。

何も聞こえないのに、あなたの声がこんなにも鮮明に聞こえるのだろう。

私も、死のうとしてるから？

本当は全部わかったた。

二度と会えないことも、あなたがそれを知らなかったことも、おそらく望まなかったことも。

世界中で私だけが、それを受け入れられずにいることも。

ねえ、そこにいるんでしょう？私は騙せないのよ。

あなたが近くにいるって知ってたら、あなたがなんて言っても、どんなことでもやりにくいのよ。

美味しいご飯を食べるのも

綺麗な景色を見に行くのも

新しく趣味をはじめるとも

次の好きな人ができるのも

瞼の裏で謝罪と別れの言葉をくり返すくらいなら

いつそ消えてなくなってしまう方がいいのに。

こんな私を振り返ったりしないで、まっすぐに逝けばいいのに。

またね、って言ったんだから、ずっと待ってたらいいのに。

置いていった罰だと思って、いたたまれなくなってたらいいのに。

私が、新しい毎日を迎えていくことを羨ましく思ってたらしいのに。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2382f/>

---

虚空へ

2011年1月7日15時08分発行